

ロボットに心はあるのか？～対話で紡ぐソーシャルロボットの世界～

★おすすめ本リスト★

『ロボット・AIと法』 弥永真生・宍戸常寿／編 有斐閣 2018年

ロボット・人工知能の進展がもたらす社会の変化に期待が高まる一方で、その悪影響も懸念されている。今ある問題から未来に起こりうる問題までを各方面からの知見が書かれている。

『AI・ロボット・生命・宇宙…科学技術のフロントランナーがいま挑戦していること』

川口淳一郎／監修 秀和システム 2017年

日本の科学界を代表する識者・研究者が、AI・ロボット・生命・宇宙など、最先端の科学技術について意見を交わす。「科学」が日本の未来をどう変えるのかを綴った一冊。

『自然会話ロボットを作ろう！

～Raspberry Pi と Arduino で作る人工知能』

鄭立／著 秀和システム 2016年

人工知能的な自然会話が手軽に実現できる時代、ロボット製作にチャレンジしたくなる一冊。

『ロボットは友だちになれるのか～日本人と機会のふしぎな関係』

フレデリック・カブラン／著 NTT出版 2011年

AIBOの開発に携わった著者が、幅広く論じたロボット文化論。機械との関係を通して見た日本と西洋の比較なども書かれている。

『面白いほどよくわかるロボットのしくみ』

大宮信光／編著 日本文芸社 2010年

現在、ロボットはどこまで進化しているか。各分野で実現しているロボット到達ラインを概観するほか、ロボットがたどってきた歴史、テクノロジーの秘密、中・遠未来の夢と可能性など、ロボットの最先端をわかりやすく解説してある1冊。

『哲学と人類～ソクラテスからカント、21世紀の思想家まで』

岡本裕一郎／著 文藝春秋 2021年

石器の印刷術、デジタル経済圏まで「技術の哲学」で読み解かれている。

『これからの哲学入門』 岸見一郎／著 幻冬舎 2020年

著者が専門の哲学と並行して、1989年からアドラー心理学を研究。古今東西の哲学者の言葉を、再構築する、最も古くて最も新しい生き方、考え方が綴られている。